

終了報告書<短期プログラム(3か月未満)用>

留学プログラム名	文部科学省 大学の世界展開力強化事業キャンパス・アジアプログラム		
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	工学院		
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	経営工学系		
留学先国	大韓民国		
留学先大学等	KAIST		
留学期間	プログラム期間:	2019年 9月 2日 ~ 2019年 9月 27日	
	実際滞在期間:	2019年 9月 1日 ~ 2019年 9月 30日	
留学中に受給した 奨学金	受給の有無:	<input checked="" type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	種別: <input checked="" type="checkbox"/> 給付 / <input type="checkbox"/> 貸与
	奨学金名称:	月額 / <input checked="" type="checkbox"/> 一括	800, 000KRW

留学先（参加プログラム／受入れ機関）の概略

キャンパス・アジアプログラム:日本の東工大、韓国の KAIST、中国の清華大学の3校が相互に学生を送るプログラム。

KAIST(韓国科学技術院):韓国の大田(テジョン)にある理科系大学。アジアで最も革新的な大学に選ばれている。授業はすべて英語で行われている。



留学前の準備

図書館に貼られていたポスターを見てこのプログラムを知った。面接を経て留学決定後は、基本的には東工大と KAIST それぞれのキャンパスアジアの担当者の方に様々な手配をして頂いた。

留学先の研究室は、KAIST のホームページを見て選んだ。志望する研究室を志望順とともに 5 つ提出し、幸運なことに第一志望の研究室に受け入れを許可された。受け入れ許可のメールのあと、指導教員のメールアドレスを教えてください、メールでコンタクトを取った。現地での寮は、KAIST の担当者の方が手配してくれたので、私自身は何もしていない。

留学用のビザは在日韓国大使館に行って取った。申請受付時間と引取時間が短いので、予定に注意する必要がある。

韓国語は全く知識がなかったので、YouTube の動画や NHK ハングル講座、韓国ドラマを見て少し見ておいた。

単位認定（互換）→しない。

留学費用

渡航費：東工大負担

奨学金：韓国側から 800,000KRW(約 7 万円～8 万円)

寮費：165,000KRW

保険料：東工大負担

生活費：

- ・洗濯は無料, 乾燥機は 1 回 50 分 1,000KRW
- ・食事は学食で食べれば 5,000KRW 弱, キャンパス外で食べると 7,000～12,000KRW くらい
- ・物価は日本とあまり変わらない

韓国は日本よりキャッシュレス化が進んでいるので, クレジットカードは必須だと思う。

留学中の活動及び感想

朝の 10 時から 17 時は研究室に通った。半導体を製造するロボットの動く順番を効率よくする, というのが私の所属した研究室の研究テーマだった。経営工学の分野ではあるが, 半導体の製造という特定の条件については詳しくなかったので, それに関する論文を読み, ケーススタディを行った。

週に 2 回夜に韓国語の授業を受けた。クラスメイトは, 半年またはそれ以上 KAIST で学ぶ留学生達だった。簡単な語彙, ハングルの読み方から始まる超初級のクラスで私のレベルにぴったりだった。他の留学生は結構苦労していたようだったが, ハングルの読み方を予習していたのと, 日本語と韓国語の文法や語彙は似たものが多いので, 私は特別大変ではなかった。

朝食は日によって食べる日もあれば食べない日もあった。おいしいパン屋さんがキャンパス内にあったのでよく利用した。昼食は主に研究室の人と食べた。研究室の学生たちは学食があまり好きではなかったので, キャンパス外に車で連れて行ってくれたのはラッキーだった。夕食は友人と食べたり, 売店で買ったものを軽く食べた。寮にあったラーメン自動販売機も 1 度試した。私は辛い食べ物が好きなので食事をとても楽しめたが, 辛い物が苦手な人は食べるものが相当制限される国だと思う。韓国人の言う”It’s not spicy.”は信用しない方がいい。

週末は主に旅行に出かけた。私の留学期間中に「チュソク」という日本で言うお盆のようなものがあったので, その連休は韓国の南部を旅行した。ソウルには 2 回行った。

留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

度胸がついたと思う。日本にいるときは, 外国人とごはんを食べるというイベントがあったらその前は少し緊張していた。しかし留学先ではそれが毎日なので慣れた。

また, ルームメイトとその友人たちと 2 泊の旅行に行ったことも, 今思えばこれまでの自分なら躊躇するようなイベントだと思う。しかし, 行ってみれば案外楽しいもので, 挑戦することは大事だと思った。

留学先での住居

私の寮はキャンパス内にある女子寮だった。2人1室で、部屋にトイレ・シャワールームがついていた。共用の設備としては、洗濯機・乾燥機・掃除機・ウォーターサーバーなどがある。一度も行かなかったが、ジムもあるらしい。オンキャンパスの寮とはいえ、キャンパスが広いので、キャンパスの図書館のあるエリアまでは歩いて15分程度はかかる。途中から自転車を友人から借りて快適に通学できた。



留学先での語学状況

学校の中では基本的に英語が通じる。しかし一歩キャンパスを出ると、表示は韓国語だけになる。さらに足をのびした週末の旅行先のソウルでは、日本語が通じることが多い。

TOEFL77点、TOEIC775点の私は、KAIST学生や他の留学生(主に非英語圏)とコミュニケーションを取り楽しむ分には全く問題なかったが、数少ない英語圏からの留学生の言葉は少し理解できないことがあった。研究室で教授や学生とアカデミックな話をするときはまだ英語力が足りないと感じた。

留学経験を今後、どのように活かしたいか

私が今回の留学で感じたのは、英語が喋れば多くの人とコミュニケーションをとることはできるが、現地語を話せることも大事であるということだ。韓国で1か月過ごして、言葉が通じず困ることはほとんどなかった。観光地はもちろん、そうでないところでも簡単な英語を使えば必要最低限の意思疎通をとることはできた。その一方で韓国語を使う場面もちろんあった。最終日に自分一人でタクシーを利用した際、運転手さんが私が韓国語が上手に話せない日本人と知って「韓国好き？好きじゃない？」「韓国 日本 友達」と簡単な韓国語の単語で話してくれた。韓国語の授業を1か月受けてよかったと思ったと同時に、もっと話せたら会話を楽しめたと思った。

今後他の留学や仕事で英語圏以外の国に行くことがあったら、現地語も最低限のレベルで勉強して、現地の人とより楽しくコミュニケーションをとりたい。

留学先で困ったこと（もしあれば）

たまにVISAやMASTER CARDのクレジットカードが使えないレストランなどがあった。そこでは韓国発効のカードしか使えないらしい(?)。いくらクレジットカードが基本の国でも最低限の現金は持ち歩いた方が安心だった。

留学を希望する後輩へアドバイス

KAIST は勉強するには最高の環境だと思います。費用面でのサポートが非常に大きいプログラムなので、ぜひ参加してみてください。